

まな世代が利用します。管理栄養士は測定を行い、結果数値の説明、食事で気に掛けていること等の聞き取りをして、食事のアドバイスを行います。「病院に行くほどでもないけど気になる」という声が多く、定期的に測定をする人やこの測定をきっかけに食事を見直す人もいます。当社は地域密着型の企業であり、学校や団体等の測定会イベント市役所主催の健康イベント・栄養相談会の依頼等、外部での出張測定会も行っています。

福祉での取り組み

オナカマ食堂の開催

「同じ釜の飯を楽しく、おいしく、食べる」をコンセプトに「オナカマ食堂」を実施しています(図2)。この活動は2021年から河内長野市と事業についての締結を結び、特定非営利活動法人はみんぐ南河内 機能強化型認定栄養ケア・ステーションからふるにサポートしてもらいながらはじまりました。行政とは広報や集客、場の提供等で連携が取れるイベントでもあります。また、行政に加えて居宅の介護支援専門員からも参加者の紹介、フィードバック等で連携しています。近年、高齢者の孤食や低栄養等の問題がありますが、オナカマ食堂に参加することで「人と食べる楽しさ」や「健康意識の向上」につながる場を提供しています。

オナカマ食堂では参加者の年齢や性別に合わせて必要なエネルギー量やたんぱく質量を伝え、当日の食事では各種の栄養素がどれだけ賄えているか、普段の食事は足りているか等、日々の食事を振り返ってもらいます。1人では食べ切れず残してしまう人も、誰かと食べることで食べ切ることができ、いつもより多く食べられる喜びを共有しています。また、アンケートをもとに2021年から2025年まで5年連続で「配食サービスを活用した栄養支援事業について」と題して、はみんぐ南河内と連携し、一般社団法人日本在宅栄養管理学会の共同発表も行いました。参加者にとって、そして、私たちにとって今後もより良い会になるよう努めていきたいと思っています。

デイサービスでの活動

当社では3施設デイサービス(通所介護)を行っています。月1回体重の体重測定により体重減少やBMI、食事量、食形態を確認し、アセスメントをしています。管理栄養士が配属されるまでは利用者の栄養状態の把握や、低栄養リスクの改善は管理されていませんでした。現在は食事量が減ってきている人に対して、食べ切れる量の提供を心掛け、自歯の残存数やう歯・歯周病等の口腔環境、飲み込みの状態等を確認した上で、飲み込みの状態からきざみ食やおかゆへの変更等をアドバイスして



図2 オナカマ食堂の様子

います。

認知症グループホームでの活動

認知症グループホームは2施設あり、こちらも入居者の栄養状態把握のためアセスメントをしています。管理栄養士が配属されるまでは体重の測定は行っていたものの、体重・BMIの管理は行われておらず、気付かない間に低栄養状態が進んでいるということがありました。要因の1つとしては嚥下機能の低下や認知機能の低下が進むことで飲み込みがうまくできず食事摂取量が減少していることです。食形態を変更せず食べられない状態が続く等、食形態を正しく変更できていない可能性も考えられました。当社で取り扱っている委託給食サービスでは、給与栄養目標量の設定が普通食エネルギー1,500kcal、たんぱく質58g、ミキサー食ではエネルギー1,290kcal、たんぱく質45~50gと食形態の違いによって摂取栄養量が減少することが分かります。スタッフや看護師と連携を取りながら、低栄養の予防等管理栄養士としてできる最大限のサポートを行っています。

今後の展望

薬局管理栄養士として算定できる加算は現在なく、今後算定できるようになることへの期待とともに、今は地域包括ケアシステムの一環として、薬剤師と連携した栄養相談の実施、自立支援・重度化防止の観点から、薬と栄養の関係性を重視する取り組みの活動を強化していきたいと思っています。薬局に管理栄養士がいることや、その活動について地域住民への周知が難しいという課題がありますが行政からのイベント依頼や親子クッキング、自社栽培のレタスを使用したイベント等、まだまだ活動範囲を広げられると思っています。少しでも地域住民へ薬局に管理栄養士がいる周知を心掛け、今後の薬局利用や施設利用において付加価値を高めていけるよう努めていきたいと思っています。